

施策マネジメントシート

基本施策名	06 文化・芸術活動の推進と歴史・文化遺産の適切な保護	施策 統括課	生涯学習課	氏名	井田 隆太
政策名	3 文化・生涯学習・スポーツ	主な 関係課	公民館		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

市民

施策の目的

文化・芸術活動のしやすい環境が整備され、市民が文化・芸術活動に親しむことができるとともに、市内の歴史・文化遺産が守られ、活用されるまちを目指します。

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	
エ	

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)	単位
1 ア 過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合	%
イ く にたち市民芸術小ホールの利用者数	人
ウ 過去1年間に文化・芸術活動を行った市民の割合	%
2 ア 国立市が「文化的なまち」だと思う割合	%
イ 市または教育委員会の後援を受けて実施された文化・芸術イベントの数	件
3 ア 過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがある市民の割合	%
イ 市内の歴史・文化遺産を地域の資源として活用されていると思う市民の割合	%
4 ア	
イ	

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 文化・芸術を育める環境整備	市民の自主的な文化・芸術活動を促進するとともに、新たな支援を行うことで、文化・芸術を育む環境の整備を推進します。また、未来を担う子どもたちへ文化・芸術、地域の伝統文化に触れる機会を提供し、その環境の確保を図ることで、感受性と創造性を豊かにするとともに、地域への愛着が育まれるまちを目指します。	市民が文化・芸術に関心を持つことができるよう、積極的に情報発信します。 く にたち文化・スポーツ振興財団や学校のほか、ギャラリー等を含む芸術活動に関連する様々な市民団体等との連携により、市民が身近に芸術に触れあう場を提供します。 市民・団体が文化・芸術活動や発表、交流等を行いやすい場・機会を提供します。 子どもや青少年に向け、さまざまな文化や芸術を体験するプログラムを提供します。
2 文化・芸術を通じたにぎわい溢れるまちづくり	魅力溢れる文化芸術活動を行っているさまざまな主体との連携、協働した取組により文化と芸術を通じ、地域や世代間の交流を深め、「つながり」を醸成していきます。また、あらゆる人々へ文化や芸術を届けられるような活動や、異なる文化に触れあう機会を提供することで、市全体で「にぎわいあふれるまち」を目指します。	く にたち文化・スポーツ振興財団との共催による文化芸術事業など、まちを活かした芸術活動の場を提供します。 アウトリーチ事業によるアーティストが市内で行う文化芸術活動を支援します。 他の施策において、文化や芸術の要素を取り入れた事業展開を推進します。 だれもが文化や芸術とつながる機会の充実を推進します。
3 歴史・文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承	市内の貴重な歴史・文化遺産、伝統民俗芸能を大切に守り、子どもたちの郷土についての理解を深め、郷土愛を醸成していくとともに、観光や地域振興につなげていきます。	継承すべき文化財を指定・登録するとともに適切に保存します。 文化財等を子どもたちの学習活用等で次世代への継承を図るとともに、市民が文化財に親しみ、市の歴史に触れることができる環境を整備します。 歴史・文化遺産の活用においては、再築される旧国立駅舎や寄贈を受けた本田家住宅など面的に活用し、回遊性の創出やまちの活性化にも寄与するとともに、市民が国立市に強い誇りと愛着を感じられるよう、方法を工夫します。 く にたち郷土文化館や古民家を利用した行事で、獅子舞などの貴重な伝統民俗芸能を実演(披露)し、継承に向けた取組を進めます。
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度				
対象指標	ア	人	見込み値											目標達成度			
			実績値	75,054	75,466	75,932	75,984	76,282	76,423								
		イ	見込み値												達成・ 未達成	前年度 比較	
			実績値														
	ウ	見込み値															
エ	見込み値																
成果指標	展開 方向 1	ア	%	成り行き値										未達成	低下		
				目標値					56.0	57.0	58.0	59.0	60.0				
				実績値	49.2	47.6	50.4	49.7	34.6								
		基本計画における 指標の説明又は出典元			国立市市民意識調査												
		イ	人	成り行き値											未達成	低下	
			目標値					67,000	68,000	69,000	70,000	71,000					
			実績値	61061	62678	57,758	57758	22388									
	基本計画における 指標の説明又は出典元			〈にたち文化・スポーツ振興財団事業報告書より〉													
	ウ	%	成り行き値											未達成	低下		
			目標値					24.0	25.0	26.0	27.0	28.0					
			実績値	23.6	22.7	22.1	21.5	17.7									
	基本計画における 指標の説明又は出典元			国立市市民意識調査													
	展開 方向 2	ア	%	成り行き値											達成	向上	
					目標値					63.0	65.0	67.0	69.0	71.0			
					実績値			67.4	59.0	63.1							
		基本計画における 指標の説明又は出典元			国立市市民意識調査												
		イ	件	成り行き値											未達成	低下	
					目標値					53	55	57	59	69			
					実績値	31	41	46	74	17							
		基本計画における 指標の説明又は出典元			市または教育委員会の後援を受けて実施された文化・芸術イベントの数												
		展開 方向 3	ア	%	成り行き値										達成	向上	
						目標値					63.0	64.0	65.0	66.0			67.0
						実績値	59.4	61.1	59.8	60.9	63.3						
		基本計画における 指標の説明又は出典元			国立市市民意識調査												
イ		%	成り行き値											未達成	向上		
				目標値					34.0	35.0	36.0	37.0	38.0				
				実績値	31.4	25.8	28.2	25.7	30.9								
基本計画における 指標の説明又は出典元			国立市市民意識調査														
展開 方向 4		ア	成り行き値														
				目標値													
				実績値													
	基本計画における 指標の説明又は出典元																
	イ		成り行き値														
			目標値														
			実績値														
基本計画における 指標の説明又は出典元																	
事務事業数				本数	10	11	10	9									
施策 コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,000	1,957	2,447	1,000									
			都道府県支出金	千円	26,210	55,042	51,802	8,520									
			地方債	千円													
			その他	千円	4,453	1,919	1,957	6,758									
			一般財源	千円	154,063	176,555	331,208	208,009									
		人件費	事業費計 (A)	千円	185,726	235,473	387,414	224,287	0	0	0	0	0				
			延べ業務時間	時間	9,315	9,781	10,345	9,535									
			人件費計 (B)	千円	25,158	30,117	36,448	32,048									
			トータルコスト(A) + (B)	千円	210,884	265,590	423,862	256,335	0	0	0	0	0				

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成) ~ E(ほぼ未達成)

C:一部の成果指標について目標を達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)

C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

・新型コロナウイルスの影響を受け、芸小ホールや郷土文化館等の休館や各種事業の中止、また市民主催イベントの実施自粛・中止の影響が大きいと考える。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

国においては、平成29年に「文化芸術振興基本法」が改正され、文化芸術そのものの振興に加え、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等文化芸術に関連する分野の施策についても法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出されるさまざまな価値を、文化芸術の継承、発展及び創造につなげていくことの重要性が明らかにされた。東京2020オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの取り組み、東京都における「東京文化ビジョン(平成27・2015年)」も策定され、オリンピック・パラリンピックも視野に入れた施策展開がされている。

国立市では、文化芸術施策の推進に向けては、基本理念を明確にし、市民にとって文化と芸術をいっそう身近なものとするとともに、「文化と芸術が香るまちにたち」を実現するため平成30年4月に「国立市文化芸術条例」を施行し、令和元年5月に「国立市文化芸術推進基本計画」も策定した。

文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた貴重な財産であり、市民のかけがえのない文化遺産、歴史的財産として、次代の人々に引き継いでいくとともに、その活用も図られなければならない。谷保に江戸時代より建つ旧本田家住宅は、令和2年3月に東京都指定有形文化財に指定された。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・くにたちアートビエンナーレにおける彫刻展は、評価する声もあるが、批判的な評価もあったため、くにたち文化・スポーツ振興財団において別事業「(仮称)くにたちアートプロジェクト」の実施に向け、検討中である。

・旧本田家住宅については、その希少性から文化財としての保存活用、また、南部地域における観光資源としての期待が寄せられている。

・「Play Me I'm Yours」の復活を望む声がある。

・市指定有形文化財である国立駅舎にピアノを設置してほしいとの要望があった。 設置済

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

・国立市は市域面積に比べ、貴重な文化財も多いとともに、近年、緑川東遺跡から出土した大形石棒が重要文化財に指定されたり、旧本田家住宅が東京都指定有形文化財に指定されたりなど、動きも多い。また、旧本田家住宅の解体復元事業に取組んでいるなど、取り組みも積極的である。

(4) 施策の具体的な取組状況

2年度の取組状況	3年度の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・「(仮称)くにたちアートプロジェクト」の検討支援 ・旧本田家住宅解体復元工事基本設計 ・郷土文化館「企画展 赤い三角屋根誕生」への協力 ・第65回くにたち市民文化祭の実施 ・【中止】「マタギの地恵体験学習会」 ・財団支援(芸小・郷土館関係) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「(仮称)くにたちアートプロジェクト」の検討支援 ・旧本田家住宅解体工事及び復元工事に向けた実施設計 ・第66回くにたち市民文化祭の実施 ・「マタギの地恵体験学習会」の実施 ・「アーティストバンク」立ち上げに向けた財団支援 ・文化芸術講演会の実施 ・財団支援(芸小・郷土館関係)

6 2年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

- 文化・芸術を育める環境整備
- 芸小ホールの管理運営(指定管理)
- 文化・芸術を通じたにぎわい溢れるまちづくり
- (仮称)アートプロジェクトの内容検討
- 芸小ホール事業(公共ホール音楽活性化事業(小学校でのアウトリーチ)、くにたちデビューコンサート等)
- 歴史・文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承
- 旧本田家住宅復元工事基本設計完了
- 旧国立駅舎展示室開設
- 郷土文化館事業(企画展「赤い三角屋根誕生」・「秋季企画展」写真にみる滝乃川学園等)、郷土文化館管理運営(指定管理)

○改善余地のある事項・課題等

- 文化・芸術を育める環境整備 及び 文化・芸術を通じたにぎわい溢れるまちづくり
- (仮称)アートプロジェクト実施に向けた検討
- 文化芸術基本計画に基づく事業の実現
- コロナ禍での「マタギの地恵体験学習会」他、各種事業の実施
- 歴史・文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承
- 旧本田家住宅復元工事実施設計に伴う各種調整

(2) 施策の2年度における総合評価

C	<p>成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価</p> <p>A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。</p> <p>B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。</p> <p>C:成果向上のため、一層の努力が求められる。</p> <p>D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。</p> <p>E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。</p>
---	--

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 4年度の取組方針

- 「(仮称)くにたちアートプロジェクト」が軌道に乗るよう、財団を支援する。
- 引き続き、旧本田家住宅の解体等工事を行うとともに、復元工事に向けた実施設計を進める。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

- 「文化芸術推進基本計画」に基づく事業展開を行う。
- 「(仮称)くにたちアートプロジェクト」を進め、文化芸術活動の拠点形成や文化芸術団体や人同士の交流促進を図る。
- 旧本田家住宅の解体復元工事を円滑に進め、復元後のオープンに向け準備を行う。